

## 代船すずらん乗船記

個人会員 大谷幸矢

5月11日から、東京九州フェリーの横須賀～新門司航路のまゆう・それいゆ姉妹のドック代船に新日本海フェリーのすいせんが投入され、その第1航の乗船記です。

画期的な代船が入ると聴き、予約初日に第1便のスイートをゲット。  
ところが食事付きでないとか、グリル営業なしとか雑音が多々聞こえてきました。  
そこで一旦キャンセルし、DXルームに格下げしました。まあ一人で乗るにはこれでも十分すぎますが。

11日午後に羽田を発ち、福岡・小倉経由で新門司の東京九州フェリーターミナルに到着。

23時過ぎに乗船しましたが、迎えて下さる事務部門は新日本海フェリーのスタッフさんで、一部東京九州の方も入っているとのこと。

今航は、トラック・シャーンは7割以上の利用ながら一般客は40人ほどで、船内は拍子抜けするほど空いています。

代船第1便にもかかわらず、お馴染みの船ヲタも、最近増殖中の迷惑なユーチューバーも見当たりません。



学会乗船会以来久々に乗るすいせん、改めて眺めてみるとなかなか豪華です。  
ゴージャスなエントランス、ぜいたくなソファ、フォワードラウンジもちゃんと開放。  
フロントでカードキーを受け取ると、新日本海ではなくきちんと東京九州バージョンでびっくり。

売店も表のほうには九州土産や湘南銘菓が並んでいます。奥に並ぶのは新日本海のお土産品やすいせんグッズでした。



レストランの営業時間は東京九州のスケジュールで、名物とも言うべきお夜食の時間もきちんと設定されています。が、内容的にはほぼ新日本海のメニューです。

出港が冷凍関係のトラブルで遅れているため、夜食時間の都合もあり出港を見ずにカフェテリアでおひとり様宴会を始めたところ、40分遅れでほどなく出港してしまいました。

そして紆余曲折のあったグリル。

乗船してからオープンすることを聞き、早速翌日の昼夜とも予約。

昼食は私一人で海鮮ちらしランチのコースを頂き、夕食は道産食材のフルコースで二人に増えました。

昼夜とも小樽オーセントホテルの方が東京九州のネクタイを締めてサービスして下さいました。

聞けばやはりオープンか否かで色々検討されたようです。

一方、人気のバーベキューは営業せず。

食材もテーブルもせっかく用意したのに、と、少々残念そうな表情です。

代船期間が約1か月に及ぶため、メインの道産食材の調達は大変かもしれません。





船内は当然ながらすいせんのままですが、掲示物や室内のリーフレットの一部は本航路用に差し替えられています。

一方、船の位置を示すテレビのGPSが表示されず、主な通過地点の予定時刻が示されるのみ。今回のように遅れが出たりすると参考になりません。ここは改善して欲しい所です。

またリネン類などは新日本海用から東京九州用に全部載せ替えたそうで、我々の預かり知らぬところでのいろいろなご苦労を垣間見た気がしました。

現在新日本海フェリーで運航される8隻のフェリーは、基本的に船尾2カ所のランプやボーディングのエントランスの位置が共通していますが、東京九州フェリーの2船も同様に共通化されています。

それゆえ本航路就航前にはまゆうが敦賀・舞鶴航路の代船（習熟も兼ねてのことでしょう）に就いたり、今回のようにすいせんが本航路に就くことも可能になったのであり、運航会社を超えた相互補完ができるのは素晴らしいことだと感じました。

本航路は開設1年にも満たないながら、東京圏と福岡圏を丸1日で結ぶ速達性からトラック・シャーンの利用率は極めて高いようで、それゆえ今回のすいせんの代船投入が決定されたのでしょう。

それならばSHKグループ全14隻全体をカバーできる代船～旧すいせんのような全長200m以下かつ高速船～を1隻保有するのもアリかと考えます。

台風シーズンなどに欠航しやすい新日本海のバックアップ船としても機能しそうです。コストはもちろんかかりますが、競合他社に対しても「ドック欠航なし」というのは大きなアドバンテージになるかと思えます。

残念ながらあいにくの天候・海象でしたが、俊足すいせんは遅れを取り戻し、ほぼ定刻に横須賀に到着しました。

いろいろなことに想いを馳せて乗ることができた第1便となりました。

完